

令和5年2月22日

足立区立第十一中学校
学校長 星 貞年 様

足立区立第十一中学校 開かれた学校づくり協議会
会長 田中 聰弘

令和4年度 学校関係者評価書

1. 自己評価書全般について

今年度の重点的な取組事項の達成度は、「十分に達成」、「おおむね達成」の評価がされており、年度初めに掲げた取組みによって成果目標が達成できたことは評価できる。

重点的な取組事項-1「学力向上アクションプランの確かな実践」では、区学力調査において、3科校内全体の平均通過率は目標値70%に対し、67.9%であった。

家庭学習ノートを活用した家庭学習の取組みとして、家庭学習ノートの提出率が全体で90%であることから今後の学力向上が期待される。学年によって、提出率に差があるのは気になるが、今後も家庭学習ノートを活用した家庭学習習慣の更なる定着を図っていただきたい。

重点的な取組事項-2、3においても自己評価書に記載されているとおり、学力向上だけでなく、生徒が身に付けるべき資質・能力を育成するために、校長が掲げる「チェンジ&チャレンジの姿勢で活動する生徒の育成」をチーム十一中で取組んでいただきたい。また、今年度の成果と課題を踏まえ、次年度に向けて課題解決に取り組んでいただきたい。

2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

学校評価アンケートで、「学校に寄せられた地域や保護者の声に、適切に対応している。」の肯定的回答が他の項目に比べて低く、昨年度よりも6ポイント下回っていることが課題として挙げられている。コロナ禍の状況が社会全般で緩和されていく中ではあるが、十一中の規模の学校で制限があることは生徒の健康・安全を考えると十分に理解できる。創意工夫を凝らしながら生徒たちの学びを前に進めていることが生徒のアンケートの「十一中の学校生活は楽しい。」「十一中に入學して良かったと思う。」の肯定的回答95%にも表れている。

開かれた学校づくり協議会委員によるアンケートの「学校、家庭、地域が連携し諸活動を行っている。」の肯定的回答は81%であるが、否定的回答も19%であることから、地域でも、中学生が参加できるイベント等を模索していく必要がある。また、部活動に関するガイドラインや教員の働き方改革等の関係で、今までとは違った協議会委員としての支援の方法を検討していきたい。

3. その他

部活動では、今年度も全国大会、関東大会、都大会へ出場する部もあり、十一中学校として誇れる活躍が見られた。様々な教育活動に対する先生方の日々の指導に感謝する。

本協議会は、学校を支え、支援する会であり、これからも生徒のために、学校と連携し、支援していきたいと考えている。